



発行所
富山県南米協会
〒930-0096
富山市舟橋北町4-19
電話 (076) 441-6148
FAX (076) 444-2179
北陸銀行県庁内支店
普通預金口座1098740
郵便振替口座00760-8-5145

富山大学
文学部
文化学
マヤ・ラ・サン
トス・デ・

定期総会を開催

六月二十三日（土）、富山県南米協会は、会員及び南米からの留学生研修員らとともに、多数の来賓を迎え、70名余の参加を得て、平成30年度定期総会を開催した。総会には、来賓として知事代理の、蔵堀総合政策局長、山本徹副議長はじめ、国会議員は宮腰衆議院議員（総理大臣補佐官）ご本人のほか、各議員秘書の皆さんも出席された。

議事では、前年度の事業報告・決算を承認し、本年度の事業計画・予算等を議決した。

（開会及び来賓等）
先ず、今回の総会では、昨年度の会長交替により就任された山崎康至会長が、あいさつを述べた。その中で、退任後、借しくも逝去された前会長河合常則さんのご貢献に感謝し、冥福を祈った。（別途掲載）

次に来賓の富山県知事の代理として出席された蔵堀祐一県総合政策局長が、石井知事の祝辞を代読された。（別掲）

次いで高野行雄県議会議長の代理で山本徹副議長が、祝辞を述べられた。（別掲）

国会議員は宮腰光寛衆議院議員（内閣総理大臣補佐官）が多忙中出席し挨拶された。その中で8月に公務で日本の農林水産物の輸出セールのため、ブラジル等南米を訪



知事代理の蔵堀局長

問される旨の表明があった。なお、田畑裕明及び橘慶一郎衆議院議員並びに野上浩太郎及び堂故茂参議院議員の各氏は秘書が代理出席された。また、首長では上田昌孝滑川市長、他に公益財団法人とやま国際センターの金森達雄専務理事も臨席された。

次に、南米ブラジルからの県費留学生、海外技術研修員等が紹介された。

リラさん（女性）、海外技術研修員として荒川サントス・ロブソンさん（男性）、高岡市立野村小学校で日系人児童らの教育にあたる多文化共生推進教育員のアビオ・エベルリソンさん（男性）及びポルトガル語の国際交流員で在任3年の吉村・マルセロ・知明さん（男性）が揃って出席し、総会の参加者に顔を見せた。

また、昨年の海外技術研修員で、南砺市の安達建設株式会社で学んだ龍田・エヴェリ・香織さん（女性）が、本年4月から同社に正規採用され、出席のうえ紹介された。



山本徹副議長

（総会の議事）
そして議事は、山崎康至会長が議長を務め、各議案の審議に入った。

先ず、議案第1号前年度事業報告及び第2号収支決算について一括して審議することとし、橘秀雄事務局長が内容を説明した後、森岡元就監事から監査報告が行われた。

報告を受けて山崎議長が全員にこれを諮ったところ、異議なく承認された。

次いで、同様に議案第3号本年度事業計画及び第4号収支予算について審議し、全員一致で議決された。

なお、事業計画に関し、元アリアンサ派遣教員の堀内大

新任の理事は、いずれも役付け理事で、①副会長には、忠田憲美（北日本新聞社代表取締役社長）、②常務理事には、松井裕（北日本新聞社専務取締役）、③常任理事には、蔵堀祐一（県総合政策局長、狩野安郎（高岡市議会議員の各氏がそれぞれ職の異動により選任された。

最後に、議長を務められた山崎会長が閉会あいさつに立ち、週末のご多忙の中、総会に参集された来賓及び会員の皆さんに対する感謝とともに、「南米は遠いが、故郷を想い、ブラジル、アルゼンチン、ペルー等で活躍される県人との絆を大切にしたい。」旨を述べられ、総会を終えた。

（交流懇談会）
総会終了後には、本年度の南米からの留学生・海外技術研修員を招き、過去のポルトガル語国際交流員・技術研修員らも交えて、県海外移住家族会との合同による交流懇談会が開かれた。

茶木素行家族会会長の開会の辞に続き、四方正治理事長の乾杯の発声で始まり、留学生・研修生のスピーチを交え、南米2団体の会員が和やかに交流した。

5年前まで国際交流員を務めたエヴェルソン・レモスさんも元氣な姿を見せた。

最後は、本会の飯田久範相談役が家族会と南米協会の発展を祈念し中締めされた。

山崎会長あいさつ
梅雨時は、例年より雨が少ない季節の中、富山県南米協会の定期総会を開催しましたところ、多数の皆様にお集まりいただき有難うございます。

本日は来賓として富山県知事代理の総合政策局長の蔵堀祐一様、及び県議会議長の代議の山本徹副議長様にも、ご来臨いただいたいております。

また、衆議院議員宮腰光寛先生はじめ多数の国会議員秘書の皆様、県議会議員、首長（上田滑川市長）の皆様にも、ご臨席いただいております。

昨年、私が河合常則前会長の健康上の理由での辞任を受けて、新しく本会会長に選任されました。

河合前会長には、その後、惜しまれつつ逝去されました。ここに河合前会長の本会に対するご貢献に感謝をささげるとともに、ご冥福をお祈りいたします。

本会は、昭和五十四年に南米諸国との交流を深め、友好親善を図ることを目的として設立されました。

我が国の南米移住は、二十世紀の初頭から始まり、昭和初期における長引く不況と過剰人口の対策として、南米等への海外移住を推進しました。

そして本年は、日本ブラジル移住110周年にあたり、7月に秋篠宮眞子内親王様が、全国から17の知事・県議会議長等が訪伯されると聞き及んでおります。

ご承知のとおり、本県から南米諸国には、戦前戦後を通じて、二千二百五十人余りが移住され、特にブラジルはそのうち八割を超える人が集中しております。

時代が変わり近年では、県内在住外国人が増加し、本会の役割も多様化しております。

これらの県内在住の外国人が定住から永住化しつつある中で、教育や生活相談を充実していきたいと考えております。

本日（今日）の総会では、平成29年度の事業報告及び収支決算、並びに30年度の事業計画及び収支予算についてご審議いただき、役員の一部改選についても議題としております。

何卒、慎重なご審議のうえ、適正な議決を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本席をお借りして、本会に対しご支援ご協力を賜りました富山県及び県議会をはじめ、市町村、関係企業並びに会員の皆様方に対し、心より感謝申し上げます。



山崎会長あいさつ



県人会活発化に期待

富山県知事 石井 隆一

木々の緑が一段と深く、夏が深まりましたが、本日、富山県南米協会の平成30年度定期総会が盛大に開催されます。ことを、心からお祝い申し上げます。

昨年、惜しまれつつご逝去されました河合常則前会長におかれましては、富山県南米協会の活動にご尽力いただき、とくに、富山県と南米諸国との友好推進に大きく貢献いただき、ありがとうございました。そのご功績を讃えたいと思います。改めて感謝を捧げたいと思います。

富山県南米協会におかれましては、昭和54年の設立以来、大規模な南米親善訪問団の派遣をはじめ、現地への日本語図書や（県内での）ポルトガル語教室の開催、県内在住南米出身者の子弟に対する就学支援など、富山県と南米諸国との友好親善の深化に多大なご貢献をいただいております。

県では、「外国人にとっても暮らしやすい多文化共生の地域づくり」、「グローバルに活躍する人材の育成」、「多様な国際交流・協力活動への支援」を主な施策として、国際化の推進に積極的に取り組んでおり、とりわけ南米諸国との交流につきましましては、現地県人会やブラジル・サンパウロ州政府と連携して、海外技術研



修員や県費留学生の受入れ、（県人が移住した）第3アンサ地区への日本語教師の派遣、友好記念奨学金の交付などを実施しております。また、本年は、サンパウロにありますが、県人会館が修繕されることにも、県としても総務省の「中南米日系社会と国内自治体との連携促進事業」を活用し、若手リーダーの招聘や現地でのイベント開催などを計画しております。これにより、県人会の活動が活発化し、本県とブラジルとの相互理解、友好・協力関係が一層深まるものと期待しております。

県としては、引き続き、南米の各県人会とのつながりを大切にし、相互の成長や発展につながる交流を進めてまいりたいと存じます。貴協会には、今後とも、本県とサンパウロ州、そして南米諸国との交流に、格別のご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。富山県南米協会様の健康、ご多幸を心からお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。



一層の交流推進を

富山県議会議長 高野 行雄

富山県南米協会の平成30年度定期総会の開催にあたり、県議会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。ご承知のとおり、本県と南米諸国の交流は、邦人移住が始まりました明治後期まで遡り、県出身者がブラジルに移住してから百年を超える歴史を積み重ねてまいりました。

貴協会におかれましては、昭和五十四年の設立以来、各種の交流事業を積極的に展開され、本県と南米諸国との友好親善に大きな成果をあげて

本日、平成30年度富山県南米協会総会のご盛会、誠にありがとうございます。山崎会長さんをはじめ、協会の皆様、南米各国との友好交流の促進、或いは県費留学生・研修員の受入れ等にご尽力されていることに心から敬意を表します。今年、ブラジル日本移住110年にあたり、今朝の新聞でも、7月に皇室から眞子様、ブラジルを長期にわたり訪問されることになっていす。同国で20日以上、各地を巡って日本人移住者との交流



公務で益明けに渡伯

内閣総理大臣補佐官 宮腰 光寛

本日、平成30年度富山県南米協会総会のご盛会、誠にありがとうございます。山崎会長さんをはじめ、協会の皆様、南米各国との友好交流の促進、或いは県費留学生・研修員の受入れ等にご尽力されていることに心から敬意を表します。今年、ブラジル日本移住110年にあたり、今朝の新聞でも、7月に皇室から眞子様、ブラジルを長期にわたり訪問されることになっていす。同国で20日以上、各地を巡って日本人移住者との交流

に務められ、日伯間の節目の年になると思います。実は、私自身もお盆明けに、総理大臣補佐官として公務でブラジル、パラグアイあたりを訪れる予定です。農林水産物の輸出・セールの目的で、現地では、日本産の食材を扱っている日本食レストランの激励も併せて行います。今後は、ブラジルだけでなく、他にアルゼンチン等を含む南米各国との関係を強化し、是非、皆様の力をお貸しいただきたいと思っています。

私の従兄弟が県内の高校を卒業後、サンパウロ州に移住しています。そのような関係のご縁もあり、以前、富山県人会館に立ち寄りした時は、会館名物のちゃんちゃん鍋を、ごちそうになった経験があります。既に建物は老朽化しており、この度は、県からも改築にご支援をいただけるとのことです。喜んでいただけることとさせていただきます。そのような観点からも、しっかりと現地との連絡を密にし、南米協会が架け橋となつて、さらに発展していただきたいと祈念し、私のあいさつとさせていただきます。



これらしました。こうした成果は、南米協会役員の皆様をはじめ、会員の皆様の並々ならぬ熱意と長年のにわたるご努力の賜物であり、深く敬意を表します。ご承知のとおり、本県と南米諸国の交流は、邦人移住が始まりました明治後期まで遡り、県出身者がブラジルに移住してから百年を超える歴史を積み重ねてまいりました。貴協会におかれましては、昭和五十四年の設立以来、各種の交流事業を積極的に展開され、本県と南米諸国との友好親善に大きな成果をあげて

終わりに、富山県南米協会の今後ますますのご発展と、本日ご列席の皆様方のご健康、ご多幸を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

井波彫刻が日本遺産に

去る5月24日、文化庁は、南砺市の「宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波」を含む全国の13件を新たに日本遺産として追加認定した。



並ぶノミと欄間制作

文化庁は、2015年以降、2020年までに全国で100件を目途に、日本遺産を認定している。これは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産（Japan Heritage）として認定し、それを語るうえで不可欠な魅力がある有形・無形の文化財群を総合的に活用する取り組みを支援している。

「宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波」は、南砺市井波町にある古刹の瑞泉寺（浄土真宗本願寺派）が江戸中期1762年に焼失し、再建した際、京都から派遣された東本願寺の彫刻師が、地元の宮大工に技術を伝えたことが、井波木彫刻の始まりである。全国の社寺彫刻や祭りの曳



瑞泉寺への延びる八日町通り

でも彫刻で造られており、彫刻工房等において、職人がのみの音を響かせている。

山、屋台彫刻を担い、新しい生活に密着した分野を開拓し、全国有数の職人集団が匠の技を駆使して、仕事に励んでいる。観光地として知られる瑞泉寺周辺及び寺の正面から延びる石畳の八日町通りは、まち全体が木彫刻美術館のようであり、通りに並ぶ商店の看板までも彫刻で造られており、彫刻工房等において、職人がのみの音を響かせている。



瑞泉寺山門

平成30年度事業計画

自平成30年 4 月 1 日
至平成31年 3 月31日

I 事業方針

20世紀初頭以来、百年余にわたる富山県出身者の南米移住を踏まえ、本会の設立目的に沿い、中南米で活躍されている移住者及び子弟家族との絆を大切にして、本県との連帯を一層強める。

特に、移住者にとって父祖の郷土である母県富山の地縁・血縁並びに風土に培われた文化をよりどころとして、将来にわたり本県と移住関係者との心の通う交流を深める。

そのため、現地の県人会等と連携して次の事業を実施し、活動を通じて本県とラテンアメリカ地域との友好親善の促進に寄与する。

II 事業計画

1. 機関紙の発行事業

- (1) 定期刊行物 2 種類

中南米諸国に関する情報、本県関係者や移住家族等の消息並びに県内の出来事を掲載した機関紙 2 種類を毎年度 6 回（隔月で）発行する。南米でも読み易く、漢字に振りがなルビを付けている。

- ① 「南米ととやま」 2 回発行
② 「南米協会だより」 4 回発行

- (2) 会員及び現地県人に配布

県内・国内の会員及び関係機関に配布するとともに、南米諸国に所在する県人会本部とその同支部にも航空便等により送付し、必要に応じ、移住家族等にも配布する。

2. 南米関係情報事業

- (1) 南米関係情報の収集

ブラジルの邦字新聞等の情報を購入するのをはじめ、国内外関係機関による定期刊行物、現地県人会などから中南米地域に関する各種の新しい情報を積極的に収集する。

- (2) ホームページ（http://www.nanbeikyokukai.com）の維持更新

本会の設立趣旨及び事業活動を外部に紹介するための、ホームページについては、2011年度に全面改訂し、ポルトガル語版のページも加えている。

今後、一層内容を充実させるとともに、南米現地からのアクセス増加に対応できるよう工夫する。

3. ポルトガル語教室開催事業

南米諸国を含め外国を理解し、友好親善の促進を図るためには、コミュニケーション手段としての言語による対話が最も効果的であり、交流相手のことば及び文化を知ることが重要である。

本年度もブラジルの公用語であるポルトガル語教室を富山市（初級・入門、講師交替）及び高岡市の両会場において開設する。

- (1) 富山教室 会場 環日本海交流会館
① 入門コース（火曜日、年間28回） 講師 赤沢省三 先生
② 初級コース（金曜日、年間28回） 講師 赤沢省三 先生

- (2) 高岡教室 会場 御旅屋セリオ（年間24回）
① 入門・初級コース（火曜日、） 講師 諏訪 実 先生

4. 留学生・海外技術研修員等の受入協力事業

毎年度、県に招かれる南米出身の県費留学生・海外技術研修員及び多文化共生推進研修員ら（本年度は全員ブラジル）が、滞在中に県内において行う交流活動等に対し、協力し支援する。

- (1) 県費留学生（4 月～翌 3 月）
マヤラ・サントス・デ・リラさん（22歳、女性）
富山大学 人文学部（日本語学）に留学（科目等履修生）
(2) 海外技術研修員（6 月～11 月）
荒川・サントス・ロブソンさん（29歳、男性） 革製品製作
（註 祖父母は、魚津市の出身）
(3) 多文化共生推進研修員（5 月来日～11 月）
ファビオ・エベルリンさん（36歳、男性） 教育
高岡市立野村小学校で日系人児童等を指導（6 月下旬から）
（国内機関JIAMで 1 か月の研修後に来県）
(4) 富山県国際交流員（ポルトガル語担当）
吉村・マルセロ・知明氏（2016年 4 月13日から）
県国際課及び（公財）とやま国際センター（TIC）を中心に、翻訳、語学指導、南米との交流促進等に従事する。またマルセロ氏は、県とTIC勤務の傍ら、本会事業にも協力される。

5. 郷土訪問者の歓迎事業

- (1) 一時帰国の移住関係者等に対する歓迎
南米諸国から一時に帰国し墓参等で里帰りする移住者の訪問に対し、効率的に短期間で郷土の発展と風土に親しんでもらうため希望に応じ関係機関と連携して、県内の産業・文化施設をはじめ、立山・黒部、五箇山など自然景勝地へ同行し案内する。
(2) 留学生・研修員・交流員等の滞在経験者の歓迎
かつて、本県に留学・研修、交流員等で滞在したOB等との絆を保つため、必要に応じ懇談会を開催して情報交換等を行う。

6. 南米との友好・交流事業

- (1) 在南米の富山県人会との交流
移住者の母県への郷土愛を大切に県人会・同支部との密接な連絡調整のうえ、継続的交流促進を図り「絆」の強化に努める。
ア ブラジル日本移民110周年の記念行事
1908年 6 月18日移民船笠戸丸で781人がサントス港に着岸以来110年にあたるので、（秋篠宮家）眞子内親王殿下を迎え、現地で 7 月21日に記念祭典が挙行される。本会も祝意を伝える。
イ 留学・研修経験者で構成される組織との協力
立山フレンド会（伯）、立山友の会（亜）の会員の活躍を応援する。
(2) 県内企業・研究機関等の滞在者との交流
ア 現地で経済活動を展開・企図する県関係企業等を通じ、南米の将来を展望し、人材、技術、資源（食糧、エネルギー、鉱物）等の分野において、有機的な関係構築と交流を促す。
イ 県内の大学、企業、官公庁等における研究や技術習得のため、滞在中の南米出身の留学生、研修員及び同伴家族との身近な交流機会の拡大に努める。
(3) 南米からの一般観光交流の促進
雪のない南米から一般観光ツアーで来日される団体客にとって、春の開通直後の立山黒部アルペンルート「雪の大谷」は極めて魅力的である。来県の際は、観光を含む県のPRと歓迎活動に努める。

7. スポーツ交流

- ア 綱引きを通ずる交流
「綱引き競技」は、近代五輪大会の当初には正式種目であった。
その復活を目的に県内強豪「城端綱引クラブ」は、南米を含む五大大陸普及をめざし活動している。本会は、同クラブがいずれ南米において競技綱引の普及啓発に取り組む機会があれば協力する。
イ サッカーを通ずる交流
サッカーを通ずる南米との交流機会があれば、実現に努力する。
① 田中マルクス闘莉王選手との縁
本県出身者（砺波市庄川町出身、旧姓松井照子さん）の孫である田中マルクス闘莉王（現「J2 京都」所属）選手がいずれ先祖の墓参等で来県機会があれば、交流事業の可能性を探る。
註 闘莉王選手は、（嘗て名古屋グランパス時代には）ワールドカップ南アフリカ大会の日本代表として活躍した。

- ② カターレ富山の南米選手

ブラジルをはじめ南米はサッカー強豪国が多く、地元チームにシーズン中南米出身選手が在籍（例2017年）すれば、交流と応援に努める。

8. 移住関係者への援護事業

- (1) ブラジル県人会館改築にかかる助成

本県人会は現地の日本都道府県人会連合会の中心的存在と評価されるほど活発化している。近年県人会の総会・忘年会等の行事参加者増に伴い、全員を会館内で分離せず収容可能なホールの改築を含む修繕等を2018年に計画している。

その事業費（564万円）捻出のため、母県の富山県、富山市及び高岡市（3 自治体）に助成の要請があり、対応を調整した結果、本会も加わりその 6 割（339万円）を 4 者共同で応分の負担を行う。送金手続は（本会経由で）一括して行う。
（県200万円、富山市及び高岡市各50万円、本会39万円）

なお、本会負担の財源は、備蓄された「移住者援護基金積立金」（次項）を一時的に取り崩して充て、これを数年間で積み戻す。

- (2) 援護基金による災害の見舞金等

本会は、「移住者援護基金積立金」を備蓄し、本県出身の南米移住者と家族が、万一の事故・火災・自然災害等の不慮の事態に遭遇された場合に支援できるように備える。災害等からの被害家族の立直りのために支援が必要と認められるときは、この援護基金を取崩し、県人会等を通じ当該被害移住者に対し、見舞金を贈る。なお、時代の変化に伴い要援護の機会は、減少している。

- (3) 移住者の年金資格等に関する照会の協力

移住者で過去に日本国内で勤務経験年数のある人が、65歳に達した場合など、本人からの年金資格に関する当局（日本年金機構）への照会に際し、可能性を探り、連絡協力する。

9. 現地での日本語・日本文化の普及事業

日本語の学習及び日本文化の理解に役立てるため、一般からの寄贈等で収集した書籍等に加え、本会が購入する新刊書と併せて南米各国の現地県人会の本部及び支部に対し、送付する。

- ① 幼稚園、保育所の児童向きのやさしい絵本など、
② 県内で撮影・制作された映画、文化等紹介DVD、ビデオなど
（「ナラタージュ」（2017公開） 松本潤、有村架純主演、恋愛もの
「羊の木」（2018公開） 関ジャニ 錦戸主演、撮影地は魚津市等）
③ 一般向けの図書、雑誌（ファッション、料理関係）等

10. 県内に在住する南米日系人支援事業

県内の南米日系人は、2, 656人（うちブラジル2, 437人、その他の諸国約220人）で、その大部分は、デカセギとその家族とみられる。

本会は、日系人の厳しい経済状況に鑑み、民間支援団体等との連携の下で生活支援を行う。また、日系人児童・生徒の教育に関する問題等について、地域の支援体制の充実に向け取り組む。

- (1) 日本語の補習と学習支援のための教室の開催（新規）
義務教育年齢の日系人の子どもで、入国後の滞在が短期間の場合は、日本語が不自由なため学校の授業も理解できず二重の困難に直面している。いずれ制度的な支援が望まれるが、放置できないので、本会がボランティアの善意を借りて自主的に集住地区において、支援のための教室を開催する。
ア 教室の開催日 毎週土曜日 90分ずつ 4 学級
イ 会場（高岡市佐野） 高岡おとぎの森公園「森のふれあい館」
(2) 日系人の子どもの就学支援
義務教育対象年齢の児童・生徒に学習用言語の理解を促し、意欲と能力があれば、高校以上に進学できる機会を増やす。
ア 学習教材の支援（進学用補習受講者の補習用ドリル）
イ 高校入学者の制服等の調達の斡旋
ウ 高校進学の困難性とネック解消のための配慮の要請
(3) いわゆる教育機会確保法の施行に伴う対応の提言
わが国では、小中生が 1 千万に減り、逆に、引きこもりは、年齢を問わず百万人に達し、外国人児童は増加中である。
新法（平成29年 2 月施行）は、不登校生徒（1. 26%）に学校以外での学び（民間フリースクール）を支援し、夜間中学（学級）を置き、行政に対し学齢期不問の就学機会提供を求めている。
将来、法に基づく対策が行われる際には、本会も日系人児童生徒（補習の必要性）の現状に鑑み、適切な対応を促す。
(4) 在住日系人の滞在と生活面の支援
滞在資格、身分（婚姻、離婚）、労働、保育などのアドバイス

11. 県出身移住者名簿の補充・整備

明治42（1909）年の県人初の南米移住から百年を経過し、移住者家族の世代降下に伴い、母県との地縁や血縁意識が薄まる傾向にある。本会は、県出身移住者の子弟が自己のルーツを訪ねることができるよう基礎資料の整備に努める。各県人会により名簿が再整備（最新2012年）されたので、今後、継続して補充に努める。

12. フェスティバル・ド・ジャパン（日本祭り）

毎年、ブラジル日本都道府県人会連合会（略称「県連」）が主催し、サンパウロ市内で日系人の最大行事「日本祭り」が開催される。
2018年は、ブラジル日本移民110周年記念式典が日本祭りの期間中に挙行され、一層、盛大になると予想されている。

各県人会は競って郷土自慢とPRを行うが、本年は（全国郷土料理500品目でギネス狙い）各県10品目超を目標に出店する。

「元氣とやまスコット『きとくと君』」が会場で好評である。
祭りの期間 7 月20日(金)から同22日(日)までの 3 日間
会 場 サンパウロ・エキスポ・コンベンション・ホール
9000㎡、4 月下旬落成、 駐車場4500台

集客予定数 約20万人
富山ブース 富山のおいしい郷土料理の品目（レシピ送付）
（従来、高岡コロッケ、すきやき井並びに県・市町村の観光宣伝）

13. 南米関連イベントへの参加並びに協賛等

県内で開催される中南米の紹介・交流関連イベント等で、本会の趣旨に照らし適切なものに対し、参加又は協賛・後援を行う。

- (1) ラテン・フェスティバル（第 9 回） 9 月15日(土) 於：富岩運河環水公園屋外劇場
国内外で音楽活動を行うアンデス民謡グループWAYNO（ウェイノ 代表谷中秀治氏 富山市在住）等が中心になり、南米関係ボランティアで組織する実行委員会が主催して、毎年、秋に開催する。
一般県民に中南米紹介のため、無料でプロの歌手、ダンサー等による芸能上演を観覧して、「歌って踊って食べて笑顔になる」楽しいイベントに協賛する。
(2) ブラジル日本移民110年記念in高岡 9 月30日(日) 於：高岡市おたや通り
日本人ブラジル移民110年を記念し、日伯交流友の会（木口実代表）が主催し、高岡市のまちなかにおいて、交流イベントを開催するので、展示及び資料提供などで協力する。
(3) 国際交流フェスティバルへの参加 11月11日(日) 於：富山駅構内及びCiCビル
富山市市民国際交流協会等で組織する実行委員会が主催し、富山駅構内及びCiCビルにおいて、県内の各国際交流団体が活動を紹介するとともに県内の外国人居住者が多数集まり、交流する。
本会も、このフェスティバルにパネル写真ほか資料等を出展参加し、一般県民を対象に、第 3 アリアンサ開拓など集団移住（昭和初期）以降における南米諸国との交流と併せて本会を紹介しPRする。

平成29年度事業報告

1 機関紙の発行事業

中南米諸国の情報、県出身者の消息及び県内の出来事等を掲載した機関紙を、年6回発行し、会員及び関係機関に対し送付した。また、ブラジル、アルゼンチン、ペルー、ボリビア及びパラグアイの各国にある県人会等に航空便により発送した。

(1) 「南米ととやま」

毎年度2回発行（1月及び7月）

(2) 「南米協会だより」

毎年度4回発行（5月、9月、11月及び3月）

2 南米情報の収集事業

本会員に対する情報源として、ブラジルの邦字新聞の情報を始め海外日系人協会の内外の関係機関から、南米における日系人の動向及び社会経済情勢の関係記事などの情報収集に努めた。

3 ポルトガル語教室の開催事業

南米ブラジルの言語と文化を学ぶため、ポルトガル語教室を、富山（入門、初級コース）及び高岡（初級コース）の両会場において、それぞれ年35回開催した。

(1) 富山会場（講師 赤沢省三先生）環日本海交流会館

(2) 高岡会場（講師 諏訪実先生）御旅屋セリオ

(3) 入門・初級コース 火曜日

4 県費留学生及び海外技術研修員の受入れ協力事業

南米諸国からの留学生及び海外技術研修員の歓送迎をはじめ各種交流会を開催し、留学生・研修員の滞在中における諸活動に対し、各種の支援を行った。

(1) 29年度の受入状況

① 平成29年度県費留学生、海外技術研修員		
滞在期間	研修先と目的	留学生・研修員の氏名
自29. 4. 3 至30. 2. 26	富山大学経済学部 経営法学科	広瀬・カレン・亜佐美（女） ブラジル（サンパウロ州）
自29. 6. 19 至29. 11. 21	安達建設株式会社 土木・建築・インフラ	龍田・エヴェリン・香織（女） ブラジル（サンパウロ州）

② 平成29年度多文化共生推進研修員		
滞在期間	研修先と目的	留学生・研修員の氏名
自29. 6. 22 至29. 11. 21	高岡市立野村小学校 （教育）	アネリザ・クラウジ・デルカス・ルチエチ（女）（聖州・公立校教員）

(2) 北日本新聞納涼花火への招待

同社のご厚意により、滞在中の南米出身等の留学生、研修生（中国、ロシアのほかアセアン諸国の理系を含む）に対し招待があり、総勢17名が特別席において観賞させていだき、「日本での一番の思い出になる。」と感謝し、夏の宵を楽しんだ。

8月1日（火） 第71回北日本新聞納涼花火

(3) ルーツ探しと親戚訪問
留学生・海外技術研修員が

滞在中に、県内等に親戚がありながら疎遠又は敷居が高い場合などに、本会がルーツ探し並びに連絡と親戚訪問に協力してきた。

29年度の留学生・研修員からは、これに類する事例がなかった。

5 郷土訪問者の歓迎事業

平成29年度において、南米諸国から郷土を訪問された移住者等の関係者で、本会に連絡又は訪問された人は、次のとおりであった。

訪問年月日	氏 名	父祖の地	現 住 所	摘 要
29. 7. 11	佐々木カルメン文子	黒部市	サンパウロ市	92年県技術研修員
29. 10. 27	市川 利雄	黒部市	サンパウロ市	ブラジル県人会長

6 南米関係者等との情報交換と交流事業

県内から南米への進出企業及び転勤者への協力
南米への進出企業に対する情報提供
新規にブラジルへ販路開拓する企業に対し、現地情報の収集を行った。

イ 協力
南米転勤家族の相談に応

じ、県人会の紹介など不安解消に努めた。

(2) 県内滞在外との交流

定期総会終了後、両会の合同により、交流懇談会を開催し、県選出国会議員、県、市町村、関係団体などの来賓を迎えて、南米関係者が交流を深めた。

7 移住関係者の援護事業

南米の県出身移住関係者が万一、病気、災害等の不慮の事態に遭遇された場合に、必要に応じて、現地県人会等を通じて見舞金を贈る事業である。平成29年度においては、幸いにも該当がなかった。

8 現地の日本語の普及事業

日本語学習と文化理解に役立つ図書等に新刊を加え、ブラジル県人会と同支部12箇所へ船便により送付した。アルゼンチンとパラグアイには、航空（SAL）便で、また、ボリビアには通常便で、それぞれ発送した。

(1) 寄贈図書及び購入新刊書

計150冊
本県で撮影又は題材となった映画のDVD（過去の例「人生の約束」等）

(2) 県内在住の南米出身者への支援事業

本会では、県海外移住家族会と協力して、県内在住の日系人等に対する物心両面での支援に努めている。比重は、一時期の食糧から子どもの教育支援に移した。

9 全国の登録外国人数

ア 参考
全国的登録外国人数は、2017年256万人、うち労働者128万人、国別登録数中国71万1千人、韓国45万3千人、比25万人、ベトナム23万3千人、ブラジル18万6千人、南米系でブラジル人は、ピーク時の32万人（07年）からリーマンショック後の失業増、東日本大震災を経て、6割（17万人15年を底）に減少したが、回復傾向にある。南米で、次に多いペルー人は、5万人弱（ピーク時の8割）で1万人減少している。

（2017年）
うち労働者128万人
国別登録数
中国71万1千人
韓国45万3千人、比25万人
ベトナム23万3千人
ブラジル18万6千人

① 南米系でブラジル人は、ピーク時の32万人（07年）からリーマンショック後の失業増、東日本大震災を経て、6割（17万人15年を底）に減少したが、回復傾向にある。

(2) 南米で、次に多いペルー人は、5万人弱（ピーク時の8割）で1万人減少している。

率7割）に達した。その要因は、電子（電圧）部品メーカによる派遣労働者の採用の影響。

(1) 補習用学習教材の支援

日系人の子どもの中には、学校の授業や学習についてくのに困難を伴う例が多いので、本会は、県海外移住家族会（茶木素行会長）と共同で県西部において補習教室を行うボランティア団体と連携し、子どもらに補習用教材を提供した。

ア 品目及び数量

小・中学生各学年用の教材ドリル24冊
連携協力団体
高岡外国人の子どものことばと学力を考える会（ALICE高岡）

ウ 支援の成果

生徒（29名、うちブラジル21名）の中で、高校受験資格者（中学3年生と既卒者）の10名（全員日系ブラジル人）が補習を受けていた。

イ 県内の南米系在住者数の変化（現在2656人）

	ブラジル	パラグアイ	ペルー	ボリビア	アルゼンチン
2018年元旦	2437人	133人	51人	32人	3人
2017年元旦	2001人	116人	44人	28人	4人
2013年元旦	2238人	120人	43人	21人	5人
2011年卒	2786人	130人	49人	20人	6人
(2006ピーク)	(4605)	(124)	(44)	(27)	(7)

注1

市町村別では、ブラジル人は高岡市に42%（前年は5割）、射水市に16%、両市で6割を占め、砺波市、南砺市、小矢部市の3市に1割、計7割弱が県西部に集中する。

一方、県東部では富山市が571人（前年の2倍余、構成比23%）に急増（寄与

率7割）に達した。その要因は、電子（電圧）部品メーカによる派遣労働者の採用の影響。

(1) 補習用学習教材の支援

日系人の子どもの中には、学校の授業や学習についてくのに困難を伴う例が多いので、本会は、県海外移住家族会（茶木素行会長）と共同で県西部において補習教室を行うボランティア団体と連携し、子どもらに補習用教材を提供した。

ア 品目及び数量

小・中学生各学年用の教材ドリル24冊
連携協力団体
高岡外国人の子どものことばと学力を考える会（ALICE高岡）

ウ 支援の成果

生徒（29名、うちブラジル21名）の中で、高校受験資格者（中学3年生と既卒者）の10名（全員日系ブラジル人）が補習を受けていた。

イ 県内の南米系在住者数の変化（現在2656人）

	ブラジル	パラグアイ	ペルー	ボリビア	アルゼンチン
2018年元旦	2437人	133人	51人	32人	3人
2017年元旦	2001人	116人	44人	28人	4人
2013年元旦	2238人	120人	43人	21人	5人
2011年卒	2786人	130人	49人	20人	6人
(2006ピーク)	(4605)	(124)	(44)	(27)	(7)

注1

市町村別では、ブラジル人は高岡市に42%（前年は5割）、射水市に16%、両市で6割を占め、砺波市、南砺市、小矢部市の3市に1割、計7割弱が県西部に集中する。

(1) 県立高校3名（全日制1、定時制2）

② 私立高校6名（全日制3、うち推薦3、一般受験3）
③ 専門学校1名（7月予定）
④ 入学時の負担軽減（制服等の調達）などの協力

10 県出身移住者の調査事業

（例）日系人の滞在資格、婚姻関係、医療施設での意思疎通の問題など）

(1) 調査のうえ関係者名簿の充実

調査のうえ関係者名簿の充実を図るため、新しい情報の把握に努めた。

(2) 調査のうえ関係者名簿の充実

調査のうえ関係者名簿の充実を図るため、新しい情報の把握に努めた。

(3) 調査のうえ関係者名簿の充実

調査のうえ関係者名簿の充実を図るため、新しい情報の把握に努めた。

(4) 調査のうえ関係者名簿の充実

調査のうえ関係者名簿の充実を図るため、新しい情報の把握に努めた。

(2) 名簿の補正整理
本会では、記録内容が最も充実した「富山県出身者関係者名簿（改訂版）平成3年6月発行」（富山県南米協会、同海外移住家族会の共同事業）に基づき、その補正を目的とし、異動分の整理に努めた。その後、大規模調査（契機は2010年南米親善訪問団）では、現地の回答率が低下し、次第に調査が困難になりつつある。

(3) 移住者の消息又はルーツ等の情報提供
県内の留守家族又は親戚から疎遠の南米移住者に関する消息の照会に回答。

近年、首都圏在住で定年後の県出身者が自分の先祖をたどり、家系図を整備する目的で、血縁の南米移住者に関する情報を求め、調査の依頼例が散見された。

11 南米における記念行事の関連

(1) アリアンサ入植90周年への富山県からの訪問
県人（141家族、531名）が入植し、開拓した第3アリアンサ（富山村）開拓90周年式典並びにブラジル富山県人会館35周年を記念する行事が、それぞれ現地で開催され、県から山崎康至副知事（本会会長）、山辺美嗣県議（同常任理事）、県国際課杉田尚美課長補佐ら5名が、祝意を表し、関係者と交流を深めた。

ア 7月15日（土）第3アリアンサ（富山村）開拓90周年式典
約600人参加（連邦議員、

市長、日系団体ら22人、聖市在住郷友会40人等）
イ 7月16日（日）ブラジル富山県人会館35周年
約60人参加（県人会役員、留学生、海外技術研修員OB、当時の寄附者等）
12 広報イベント及び関連事業への後援等

(1) 国際交流フェスティバル2017 in 富山に出展
県内の国際交流団体が日頃の活動内容を紹介し、併せて在住の外国人が各国ごとに展示ブースを設けて、市民と交流するイベントに参加した。会場は、C i Cビルと富山駅コンコースを利用し、多数の一般市民の目に触れた。

日時 11月12日（日）
10時30分～17時
場所 C i Cビル及び富山駅
内容 富山駅コンコース
① 国際交流・協力団体の活動紹介
本会は開拓移民、訪問交流等紹介
② 各国紹介ブース（ブラジルのコーナー設置）
C i Cビル1階
ワールドゲーム大会、ステージ・パフォーマンス、C i Cビル3階
③ とやまの国際交流・協力団体集合・体験発表・スピーチコンテスト、世界のフオークソング、世界の音楽と踊り、世界の民族衣装を着てみよう、世界の「おいしい」に出会うコーナー（インド料理ほか）

(2) 「ラテンフェスティバル」（第8回）への支援
富山駅北で開催された「ラテンフェスティバル in 富山」（主催は同実行委員会、谷中仁美代表）の「歌って踊って、食べて笑顔になる」趣旨に賛同し、協賛した。

夕方からの民俗舞踊及びメーインのアンデス民謡グループWAYNOは圧巻であった。

日時 9月16日（土）
11時～20時
場所 富岩運河環水公園屋外劇場（湊入船町）
内容 南米音楽と踊りのライブ（サンバ、ボサノバ、ボリビアの民俗舞踊等）、アンデス民謡グループWAYNO（ウエイノ）による民俗音楽、屋台フード・コーナー（南米の家庭料理）、雑貨みやげブース

注 このイベントは、強力なスポンサーも不在にもかかわらず、（食べ物以外は）無料で、南米関係のプロによる音楽と踊りのライブを楽しむことができる。

さらに、南米各国出身者らとの交流機会となることから、熱気に溢れ、参加者も増え、地道に定着しつつある。



また、町外からの移住を促進するため、あいの風とやま鉄道泊駅前に旧旅館を改造して移住拠点施設・こすぎ家が4月に開設され、移住希望者が一定期間滞在できる「お試し住宅」事業など、若い世代を含むU i Jタインを推進する。町の医療拠点・あさひ総合病院の経営

笹原朝日町長が無投票で再選
任期満了に伴う朝日町長選挙が5月22日（火）告示され、現職の笹原靖直氏（63歳）が無所属、1期、同町草野Ⅱの他に立候補の届け出がなく、無投票で再選が決まった。朝日町は、県の東端部に位置している。現在、人口は、分の約1万2千人に減少し、人口構成比は、老年人口（65歳以上）が40%を超え、県全体を10ポイント上回り、年少人口（15歳未満）は9%で、県内市町村で最も少子高齢化が著しい。

町の将来人口が2045年多い。

には、わずか5千人余の推計もあり、減少傾向に歯止めをかけるため、子育て支援や移住促進に力を入れている。笹原町長は、人口減の厳しい状況に立ち向かい、公約で『子育て応援日本一のまち』を掲げ、強い危機感を町民と共有し、活性化のため「オール朝日」でまちづくりを進める。子どもを産み育てやすい環境づくりでは、「おうちで子育て応援」制度により家庭で育児をする世帯に支援金を支給するほか、妊婦への公共交通利用補助など町独自の施策も多い。

中沖豊元知事が死去
元富山県知事の中沖豊氏（90歳）が、6月24日肺炎のため死去された。

中沖氏は、1980年11月に任期途中で病没した中田幸吉知事の後任として、53歳で初当選して以来、6期24年間にわたり知事を務めた。

富山県の特徴を活かして、日本のパイオニア県をめざし、三つの日本一に挑戦し、健康スポーツ、花と緑、科学文化を目標にした。県勢計画では、三つの政策の柱として、人づくり、郷土づくり、産業づくりを掲げ推進した。また、「いい人 いい味 いいいき

については、笹原町長就任当初からの懸案で、先ず医師や看護士の確保に取り組み、京都看護大との連携、看護学生就学資金貸与条例改正、病児・病後児保育の開設などで効果をあげ、今春、8名の看護師を新規採用した。

今後、病棟再編計画に基づき、高齢者の医療・福祉の充実のため地域包括ケア病棟を新設し、回復期の患者らの在宅復帰を支援する。

産業面では、再生医療分野のベンチャー企業・アノムスが、富山大学の研究成果を基に、昨年4月に再生医療向け羊膜シートを製造する施設を完成した。

また、防災機器メーカーのポエック（本社広島）が朝日

富山「観光キャンペーン」により全国に発信した。

在任中には北陸新幹線、北陸自動車道など高速交通体系や社会資本の整備が進んだ。

中沖氏は、県出身移住者の多い南米との絆を大切にし、置県百年をはじめ、ブラジル県人会の節目の記念年における移住者の郷土への招へい、相互の訪問による交流、県費留学生・海外技術研修員の受け入れ拡大にも尽力された。

1985年7月サンパウロ州のモニター知事との間で、州政府において県友好提携の協定書に署名された。

南米との交流を積極的に進められたご功績に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

研修員報告（高岡市立野村小学校）

アネリザ・クラウゾ・デ・ルツカス・ルチエーチ

1 来日前に期待していたこと

私はブラジルのサンパウロ州の教育委員会と富山県による面接に合格して来日しました。このプログラムはとても興味深い内容だと思いましたが、ブラジルの教師は、日本で学んでいるブラジル人の子どもたちをサポートするだけでなく、日本の文化と教育方法を学ぶことができます。ブラジルに帰国後は、ブラジルの教育の発展と、ブラジルと日本の友好に尽くすことができます。

2 研修について

この研修は六月の最後の週から始まりました。このプログラムでは、ブラジル人の児童に国語と算数の学習支援を行います。それと同時にブラジルと日本の友好を深める活動に参加したり、いろいろな経験を通じて日本の教育について学んだりします。

私はUNESP大学で日本語を勉強しました。その後、サンパウロ日本人学校において、日本人の学生にポルトガル語を教えていました。現在はサンパウロ州立中学校と高等学校で働いています。私にとっては、日本に来ている日系ブラジル人の学生にポルトガル語でサポートするだけでなく、自分自身の日本語の能力を高めることができます。日本語能力の向上はこの機会における私の目標の一つです。今回の来日は二回目です。一回目は留学生として、九州の高等学校で1年間勉強しました。そのときに日本の文化、日本語そして習慣を学びました。今回は、さらに日本の教育システムを学び、ブラジル



ブラジル人の児童に漢字を教えています



ブラジル人の児童に数を教えています

をしました。日本の算数とブラジルの算数はとても違います。ですから家で家族は教えることができません。そのため、児童にとってブラジル人の先生からポルトガル語で説明を受けて理解する機会が、とても重要です。学校でしか勉強することができないのです。日本の計算のやり方をブラジル人の児童が覚えるにはとても時間がかかりました。

国語の学習で一番困ることは漢字です。ブラジル人にとって暗記する学習は多くありませんので、慣れています。ブラジル人の子どもたちが授業のスピードについていくことはとても難しいのです。ブラジル人教師のサポートがなくては次第についていけないことが明らかです。ルビのふつてある教科書や漢字ドリルの継続などが必要だと思いました。



日本語指導教室

家庭訪問も行いました。ブラジル人の保護者と会って、いろいろな相談に乗りました。どんな学校生活を送っているかとか、勉強の様子、学校についてお話ししました。家族は長時間働いていますので、あまり子どもとの勉強時間がないかもしれません。この

ままた、私はアレッセにおいても研修と見学をしました。そこでは毎週火曜日と土曜日に、ブラジル人の中学生と高校生に対して、先生たちがボランティアで国語、社会、理科、科学、英語そして数学を教えています。そこでは生徒たちはあまりポルトガル語を話しません。ポルトガル語は家で話さず、学校で話さなければ上手に話せるようになります。また理解すること目や学んでいました。ブラジル人の子どもたちが一生懸命学んでいる姿、がんばっている姿を見ました。

その一方で、学校の先生からは「ブラジル人の子どもは勉強がきらいだ」という声もよく聞きました。それはとても悲しいことでした。子どもたちは勉強することが嫌いなのではないと思います。困難を抱えているから、うまくいっていないのだと思います。研修を通して、ブラジル人家庭での保護者と子どもとの問題、学校での日本人生徒とブラジル人生徒との問題、先生活方とブラジル人家族との問題など、たくさん問題があることを知りました。一人の力で解決できないことです。一人でも多くのサポートが必要で、自分がその役割を果たせるように、短い期間ですが精一杯頑張ってきました。

富山での生活について
富山はとても静かで、安全に住むことができる場所です。そして町中に美しい緑を見ることが出来ます。現代的な町ですから、新幹線や市電、バスなどを利用すればどこへでも行けるのも魅力です。私は高岡市に住んでいました。高岡は歴史のものがたくさん残っています。有名な高岡大仏や瑞龍寺を訪れました。また高岡は職人が多く、素晴らしい美術品がたくさんあります。銅で創った彫刻をよく見かけました。住む人も皆優しい街です。



浴衣で参加した富山祭り

4 帰国後、研修での体験を母国でどのように活かしますか。
ブラジル人の児童のほとんどが、日本生まれです。幼稚園から日本の習慣や文化を学んでいます。保護者にとっては日本の学校はとてもよいと感じています。ここでは安全な生活ができますし、信頼できます。そしてきまりを遵守します。児童は規則を守ります。学校はきまりを守ることが大事にし、児童もきまりを守ります。だから大人になったらあまり厳しくしなくても、ルールを守ることができるようになります。この点は、ブラジルの教育にとっても役立つし、必要であると思いました。また、日本の学校はとても組織化されています。先生たちが1年間にすることや学校の計画が全部分かっています。ブラジルでは学校ごとの独自性が尊重されている反面、それぞれの学校がどのような計画

富山は古くからの観光地です。富山は古いものを大切にしています。土地の文化が残っています。私は、日本人学校の先生方に東京を案内してもらったことがありましたが、都会の生活と地方の生活とは全く違うと感じました。祭りでは「おわら風の盆」に参加しました。とても優雅で美しい踊りでした。サンパの国ブラジルと対照的です。富山祭りの花火大会には浴衣を着せてもらって参加しました。その他にも和紙作りなど伝統的な文化を体験しました。また、ブラジルでは高山がなく、雪も降らないので、立山登山は思い出深いです。黒部ダムも素晴らしい場所です。

富山は古くからの観光地です。富山は古いものを大切にしています。土地の文化が残っています。私は、日本人学校の先生方に東京を案内してもらったことがありましたが、都会の生活と地方の生活とは全く違うと感じました。祭りでは「おわら風の盆」に参加しました。とても優雅で美しい踊りでした。サンパの国ブラジルと対照的です。富山祭りの花火大会には浴衣を着せてもらって参加しました。その他にも和紙作りなど伝統的な文化を体験しました。また、ブラジルでは高山がなく、雪も降らないので、立山登山は思い出深いです。黒部ダムも素晴らしい場所です。

富山は古くからの観光地です。富山は古いものを大切にしています。土地の文化が残っています。私は、日本人学校の先生方に東京を案内してもらったことがありましたが、都会の生活と地方の生活とは全く違うと感じました。祭りでは「おわら風の盆」に参加しました。とても優雅で美しい踊りでした。サンパの国ブラジルと対照的です。富山祭りの花火大会には浴衣を着せてもらって参加しました。その他にも和紙作りなど伝統的な文化を体験しました。また、ブラジルでは高山がなく、雪も降らないので、立山登山は思い出深いです。黒部ダムも素晴らしい場所です。

富山は古くからの観光地です。富山は古いものを大切にしています。土地の文化が残っています。私は、日本人学校の先生方に東京を案内してもらったことがありましたが、都会の生活と地方の生活とは全く違うと感じました。祭りでは「おわら風の盆」に参加しました。とても優雅で美しい踊りでした。サンパの国ブラジルと対照的です。富山祭りの花火大会には浴衣を着せてもらって参加しました。その他にも和紙作りなど伝統的な文化を体験しました。また、ブラジルでは高山がなく、雪も降らないので、立山登山は思い出深いです。黒部ダムも素晴らしい場所です。

や方針で運営されているのか
が分かりにくい。教師が
学校を任せもして教えてい
ることもありません。そのため、
学校で教師がまとまりにくい
面があるのです。

また、児童の関心や自主性
が重んじられていることも参
考になりました。帰国後の指
導に生かしていこうと思いま
す。

保護者が学校に協力的であ
ることも帰国後に報告した
ことのひとつです。保護者は、
学校から出される様々な「お
たより」によって、学校の生
活や予定について把握してい
ます。PTA活動があるとき
は、ほとんどの保護者が参加
します。学校と保護者が協力
している点が素晴らしいと思
いました。予定を把握してい
るといふことについては、子
どもたちも「おたよりちょう
や」「生活ノート」を活用し
て、忘れ物をしません。こ
のやり方は参考になります。

私はこのような日本の教育
の良い面を帰国後に報告し、
学校に対して提案していき
いと考えています。しかし、
ブラジルの教育の良い面であ
る、個性を大切に学習して
いることや、人に親切であ
ること、差別をしないことな
どは、日本の先生方にも伝え
る必要があると思っていま
す。互いに学び合うべきだと
考えます。

5 研修を終えて、富山のみ なさんに伝えたいこと



富山運河環境公園にて

私が初めて富山県高岡市に

来たとき、皆さんは私をとて
も歓迎してくれました。本当
にありがとうございます。

私にとつてこの富山で研修
するチャンスを与えていただいた
はとても嬉しく忘れられない
出来事です。私は野村小学校
での研修で、職員の皆さんに
日本の学校教育などについて
親切に教えてもらい感謝して
います。

その中で感じたことは、日
本人とブラジル人の習慣、文
化、教育などの違いについて
です。ブラジル人の子供たち
は、遅い、やる気がないと思
われている場合が多くありま
すが、やる気がないのではな
くて分らないだけなので
す。そんな時には少しだけ考
える時間を彼らに与えたら、
きっと出来る事も増えてくる
と思います。また私たちのよ
うな研修員が少しでもサポー
ト出来て、子供たちのやる気
につながったら嬉しいと思い
ました。

私は日本で学んだ事をブラ
ジルに帰って皆に伝えたいと
思います。

皆さん本当にありがとうご
ざいました。

2017年に認定された
荒波を超えた男たちの夢が
紡いだ異空間「北前船寄港地・船主集落」に
地・船主集落」には、富山
市及び高岡市が加えられた。

これまで福井以北の日本
海側（富山県を除く）7道県
から、今回、日本海沿岸（山
口県を除く）全県及び大阪府
を含む瀬戸内の山陽側自治体
を加え、15道府県に拡大し、
日本遺産67件の中で最も広域
となった。

富山市岩瀬には回船問屋で
あった旧森家住宅や旧馬場家
住宅があり、高岡市には伏木
北前船資料館になっている旧
秋元家住宅や旧伏木測候所庁
舎・測風塔などが残る。

越中の北前船は、航海ごと
に資産が倍増するのでバイ船
と呼ばれ、県内からコメ及び
稲わらで編んだムシロや俵
（カマス）を蝦夷地（北海道）
に運び、帰路は高価な昆布及
び金肥（購入肥料）と呼ばれ
乾燥ニシンを商いした。

1 北前船と昆布ロード
幕末には、この昆布は、薩
摩を通じて、琉球（沖縄）経
由で、中国大陸とも交易され、
内陸の西藏ではヨード不足の
特効薬として使われた。

とくに、富山の薬種商密田
家が所有の北前船「長者丸」
は、よそ者を拒絶した薩摩に
入国を許された売薬の薩摩組
に属し、主に昆布を運び、琉
球経由で、中国大陸から（長
崎出島以外の非正規ルート
で）入手される麝香、朝鮮ニ
ンジンなどの漢方薬原材料と
交換していた。

幕末期に薩摩藩は、昆布と
砂糖を商うことにより藩財政
の立て直しに成功し明治維新
の原動力となった。現在でも、
昆布の一人当たり消費量は、
沖縄県と富山県が全国トップ
であり、昆布を使った独自の
料理と文化が根付いている。

2 越中岩瀬の「長者丸」漂流
から180年
越中岩瀬の北前船「長者丸」
（650石積み、乗員10名）
が幕末の1838年11月に函
館で昆布を満載し、東廻り（太
平洋）航路で仙台北領唐丹港（釜
石）から、金華山沖で暴風に
あい、5ヶ月間、ミッドウェー
諸島近くまで漂流する。翌39
年4月、米国の捕鯨船ジェー
ムス・ローパー号に生残った
7名が救助される。さらに船内
で5ヶ月間、採油作業を手伝
いながら乗組員と交流する。

漂流民のうち次郎吉（26歳）
は聡明で、短期に会話を習得
できた。遭難10ヵ月後の9月
に、ようやくハワイ島ヒロ港に
上陸した。今年が漂流180
年にあたる。長者丸漂流民の
上陸は、ジョン万次郎より2
年早く、約1年間滞在した。

遭難から4年半後（184
3年5月）に帰国した漂流民
は、国禁を破つたので幕府と
藩からは、長期事情聴取（抑
留扱い）されたが、開国直前
の幕末に膨大な外国事情をも
たらした。越中人が拓いた北
前船の昆布ロードが、琉球経
由の大陸系薬種原料との交易
を通じて、薩摩を雄藩にした。

また、米国人の幕末漂流民研
究者プラマー女史は、著書最
初にアメリカを見た日本人
の中で、初の日米親善大使と
讃えている。

(1) 鯨を乱獲した白人国家
米捕鯨船は、日本近海ま
で来て、セミ鯨、マッコウ鯨
を乱獲していた。船上で鯨を
解体し、脂肪分だけを採取し、
他の鯨肉等の部分は捨て、ラ
ンタン用の鯨油をつくった。

1859年ペンシルバニアで
油田が発見され衰退した。
53年ペリー艦隊が、浦賀に
来て開国を迫った際、捕鯨船
に対する水・食糧補給が表向
き理由であった。

(2) 日本と交易すれば巨利
ハワイの現地新聞ポリネシ
アンにボールドウィン医師が
漂流民次郎吉から聴取した投
稿記事（1840年8月1日）
及び10月17日）が掲載され
た。次郎吉は、開国前の日本に
膨大な情報をもたらした。逆
に、日本は国際的に金（銀と
の交換比）や絹が安価である
ことが首都ワシントンまで伝
わり、ペリー艦隊を派遣する
気運を高めた。

(3) 2年後に救助の万次郎
土佐の漁師の少年万次郎
（14歳）が漂流し救助された
際、彼に対し越中漂流民が残
した遺留品の長キセル（喫煙
具）と二朱銀貨を見せたこと
ろ、驚きを示したので、幸運
にも日本人と判断され本国で
教育することになった。

(4) カメハメハ王に招かれる
当時、ハワイは英国探検家
クックが発見し船主の伯爵名
からサンドウィッチ諸島と呼
ばれた。支配の実権は米国に
移りつつあった。

日本人上陸の噂を聞いたハ
ワイ王室にも、長者丸漂流民
一行は招かれた。その礼節品
行は、誠実・謙虚で信頼と感
銘を与えた。船頭平四郎が上
陸1ヵ月後に衰弱死すると、
夜には、カメハメハ3世（17
96年に統一した大王の次子）
が弔問に訪れ、葬儀には島民
300人を参列させた。残る6
人は約1年間ハワイに滞在。

これが、日本への信頼の基
礎となり、後の元年者と呼ば
れる日本人初移民（1868
年）につながる。

(5) マチユピチユ発見者の縁
船頭平四郎の葬儀で導師を
務めた宣教師ハイラム・ビン
ガムは、船頭をイオニア宮殿
隣のカワイアハオ教会の敷地
内に埋葬した。導師の同名の
孫三世（インディ・ジョーン
ズのモデル）が、1911年

(6) ロシア経由で4年半後に
呼ばれる遺跡を発見した。
組織し、インカの空中都市と
組織した。望郷の念止み難く
漂流民はハワイ永住を勧め
られたが、望郷の念止み難く
帰国を希望した。

上海経由の船便は、阿片戦
争（1840年）の勃発で不
通になり、止むを得ずロシア
経由を選択したところ、露国
の手続きを得るべく、カムチ
ヤツカで10ヶ月、オホーツク
長官邸で13ヶ月、再び露領ア
ラスカ南端に戻り、シトカで
露アメリカ社支配人別邸に7
ヶ月間止宿し、許可を待つ。

シトカで加賀藩主へのおみ
やげに置時計を贈呈され、1
843年5月、択捉島の古別
港に着く。日頃から日本各地
の船が集まり、越中人もいた。
国内に膨大な海外情報

(7) 幕府勘定所に出頭、取調べを
受ける。翌年、攘夷派の急先
鋒で有名な水戸藩邸の徳川齊
昭（慶喜の父）に次郎吉が招
かれる。45年まで、藩書調所
（後に開成所、東大）の頭取
古賀謹一郎に30回余の聴取を
受け、1849年末「蕃談」が
完成、写本により幕閣や大

名らが目にする。
一方、加賀藩では藩主前田
斉泰が置時計の由来を後世に
伝えようと、遠藤高環に命じ
て、漂流民の談話を記録させ
たのが「時規物語」である。

平成29年度収支決算書

平成29年 4月 1日～
30年 3月31日

収 入 の 部

〔単位：円〕

科 目	予算額 A	決算額 B	比較増減(△) (B－A)	備 考
会 費	2,000,000	1,867,380	△132,620	
負 担 金 ・ 補 助 金	2,770,000	2,770,000	0	とやま国際センター 1,000,000円 市町村 1,770,000円
繰 入 金	100,000	0	△100,000	災害時の基金取崩し
諸 収 入	50,000	110,013	60,013	受講者テキスト代等
繰 越 金	842,258	842,258	0	
合 計	5,762,258	5,589,651	△172,607	

支 出 の 部

〔単位：円〕

科 目	予算額 A	決算額 B	比較増減(△) (B－A)	備 考
事 業 費	2,320,000	1,750,441	△569,559	
機 関 紙 発 行 費	740,000	643,495	△96,505	南米ととやま 2 回 南米協会だより 4 回
南米関係情報費	100,000	47,564	△52,436	資料購入、ホームページ更新料
ポルトガル語教室開催費	650,000	572,877	△77,123	富山・高岡
留学生・技術研修員受入協力費	220,000	161,535	△58,465	受け入れ協力、交流活動支援
郷土訪問者歓迎費	50,000	7,299	△42,701	
懇談・交流事業費	200,000	92,836	△107,164	
移住者援護事業費	100,000	0	△100,000	災害時の見舞金
日本語普及事業費	200,000	184,390	△15,610	南米各国へ図書送付等
在県南米出身者支援事業費	50,000	40,445	△9,555	
県出身者名簿の充実・調査	10,000	0	△10,000	
次回訪問団準備費	50,000	50,000	0	
事 務 費	3,070,000	2,753,842	△316,158	
会 議 費	260,000	246,617	△13,383	
事 務 諸 経 費	2,810,000	2,507,225	△302,775	
人 件 費	2,030,000	2,011,839	△18,161	
旅 費 ・ 交 通 費	70,000	20,720	△49,280	
通 信 運 搬 費	150,000	115,192	△34,808	
印 刷 費	110,000	46,060	△63,940	
消耗器材費・雑費	450,000	313,414	△136,586	
使用料及び賃借料	230,000	270,659	40,659	行政財産使用料 維持管理費
予 備 費	92,258	0	△92,258	
合 計	5,762,258	4,824,942	△937,316	

収入済額	5,589,651
支出済額	4,824,942
差引金額	764,709

平成30年度収支予算(案)

平成30年 4月 1日～
31年 3月31日

収 入 の 部

〔単位：円〕

科 目	本年度予算額 A	前年度予算額 B	比較増減(△) (A－B)	備 考
会 費	2,000,000	2,000,000	0	
負 担 金 ・ 補 助 金				とやま国際センター 1,000千円
(1)一 般 分	2,670,000	2,770,000	△100,000	県内15市町村 1,670千円
(2)特 別 分 (預 り)				①富山県 2,000千円
伯県人会館改築助成資金	3,000,000	0	3,000,000	②富山市 500千円
				③高岡市 500千円
繰 入 金	390,000	100,000	290,000	④移住者援護基金取崩し
諸 収 入	50,000	50,000	0	受講者テキスト代等
繰 越 金	764,709	842,258	△77,549	
合 計	8,874,709	5,762,258	3,112,451	

支 出 の 部

〔単位：円〕

科 目	本年度予算額 A	前年度予算額 B	比較増減(△) (A－B)	備 考
事 業 費	5,490,000	2,320,000	3,170,000	
機 関 紙 発 行 費	740,000	740,000	0	南米ととやま 2 回 南米協会だより 4 回
南米関係情報費	100,000	100,000	0	資料購入、ホームページ更新
ポルトガル語教室開催費	530,000	650,000	△120,000	富山・高岡
留学生・技術研修員受入協力費	220,000	220,000	0	受入協力、交流活動支援
郷土訪問者歓迎費	50,000	50,000	0	
懇談・交流事業費	200,000	200,000	0	
移住者援護事業費				(上記①、②、③及び④)
①災害・事故等関連	0	100,000	△100,000	本会からの助成分④390千円
②伯県人会館改築助成	3,390,000	0	3,390,000	県・富山市・高岡市3,000千円
日本語普及事業費	200,000	200,000	0	南米各国へ図書送付等
在県南米出身者支援事業費	50,000	50,000	0	
県出身者名簿の充実・調査	10,000	10,000	0	
次回(2020)訪問団準備費	50,000	50,000	0	
移住者援護基金積立金	50,000	0	50,000	基金の補填（8年間で回復）
事 務 費	2,970,000	3,070,000	△100,000	
会 議 費	250,000	260,000	△10,000	
事 務 諸 経 費	2,720,000	2,810,000	△90,000	
人 件 費	2,030,000	2,030,000	0	
旅 費 ・ 交 通 費	60,000	70,000	△10,000	
通 信 運 搬 費	150,000	150,000	0	
印 刷 費	80,000	110,000	△30,000	
消耗器材費・雑費	400,000	450,000	△50,000	
使用料及び賃借料	230,000	230,000	0	会館事務室（行政財産）使用 料及び維持管理費
予 備 費	84,709	92,258	△7,549	
合 計	8,874,709	5,762,258	3,112,451	

富山県南米協会役員名簿

(平成30年 7月 2日現在)

名誉会長	石井 隆一（富 山 県 知 事）	相談役	坂田 光文（元 県 議 会 議 長）	常任理事	横山 栄（県 議 会 議 員）
名誉顧問	鹿熊 安正（前会長・元参議院議員）	相談役	Ⓜ大野 久芳（黒 部 市 長）	常任理事	菅沢 裕明（県 議 会 議 員）
顧 問	田畑 裕明（衆 議 院 議 員）	相談役	山本 修（元 県 議 会 副 議 長）	常任理事	Ⓜ蔵堀 祐一（総 合 政 策 局 長）
顧 問	宮腰 光寛（衆 議 院 議 員）	相談役	大永 尚武（元 県 副 知 事）	常任理事	澁谷 克人（県 教 育 長）
顧 問	橘 慶一郎（衆 議 院 議 員）	相談役	齋田 道男（元 県 副 知 事）	常任理事	今本 雅祥（富 山 市 副 市 長）
顧 問	野上浩太郎（参 議 院 議 員）	相談役	寺林 敏（前 県 副 知 事）	常任理事	村田 芳朗（高 岡 市 副 市 長）
顧 問	堂放 茂（参 議 院 議 員）	相談役	澤合 敏博（元 県 出 納 長）	常任理事	村上 和久（富 山 市 議 会 議 長）
顧 問	又市 征治（参 議 院 議 員）	相談役	塚原 鐵二（前 県 出 納 長）	常任理事	Ⓜ狩野 安郎（高 岡 市 議 会 議 長）
顧 問	山田 俊男（参 議 院 議 員）	相談役	八木 近直（元 県 教 育 長）	常任理事	市森 武（㈱新日本コンサルタント取締役 会長）
顧 問	吉田 豊史（前 衆 議 院 議 員）	相談役	橋本 清（元 県 教 育 長）	常任理事	荒井政四郎（北陸アルミニウム㈱監査役）
顧 問	綿貫 民輔（元 衆 議 院 議 員）	相談役	飯田 久範（富山県社会福祉総合センター理事長）	常任理事	押田 博（元 県 厚 生 部 長）
顧 問	長勢 甚遠（元 衆 議 院 議 員）			常任理事	上江 崇春（元 県 農 林 水 産 部 長）
顧 問	広野ただし（前 参 議 院 議 員）			常任理事	山本 清（富山県海外移住家族会理事）
顧 問	柴田 巧（前 参 議 院 議 員）			常任理事	大野 修（富山県海外移住家族会理事）
相談役	田中 克之（（公財）海外日系人協会 理事長）	会 長	山崎 康至（県 副 知 事）	常任理事	恒川 健三（富山県海外移住家族会理事）
相談役	吉田 忠裕（YKK㈱取締役 元代表取締役会長 CEO）	副会長	森 雅志（富 山 市 長）	常任理事	茶木 素行（富山県海外移住家族会 会長）
相談役	荒井 毅（北陸アルミニウム㈱代表取締役社長）	副会長	Ⓜ高橋 正樹（高 岡 市 長）	常任理事	須沼 英俊（（公財）富山県農林水産公社 理事長）
相談役	高木 繁雄（㈱北陸銀行 特別参与）	副会長	Ⓜ忠田 憲美（北日本新聞社 代表取締役社長）	常任理事・事務局長	橘 秀雄（富山県海外移住家族会 専務理事）
相談役	河合 隆（北日本新聞社 顧問）	副会長	Ⓜ浅野 慎一（YKK㈱執行役員 黒部事業所長）	理 事	堀田 義雄（県 青 船 会 相 談 役）
相談役	向井 英二（元理事長・元県議会議長）	副会長	石澤 義文（富山県商工会連合会長）	理 事	中筋 國雄（富山県海外移住家族会 相談役）
相談役	大上紀美雄（元 県 議 会 議 長）	理 事 長	四方 正治（県 議 会 議 員）	理 事	村田 郁雄（元 県 青 年 の 家 所 長）
相談役	北島秀一郎（元 県 議 会 議 長）	常務理事	Ⓜ松井 裕（北日本新聞社 専務取締役）	理 事	湯上谷 勉（元 県 出 納 事 務 局 長）
相談役	横田 安弘（元 県 議 会 議 長）	筆頭常任理事	松任 敏雄（北日本新聞社 相談役）	理 事	山沼 茂敏（前 高 岡 市 議 会 議 員）
相談役	仲 外喜雄（元 県 議 会 議 長）	常任理事	上田 信雅（前 砺 波 市 長）	監 事	石田 清保（前建築技術センター専務）
相談役	梶 敬信（元 県 議 会 議 長）	常任理事	米原 蕃（県 議 会 議 員）	監 事	森岡 元就（富山県海外移住家族会副会長）
相談役	鹿熊 正一（県 議 会 議 員）	常任理事	山辺 美嗣（県 議 会 議 員）		
		常任理事	杉本 正（県 議 会 議 員）		